

これからの時代に求められる資質・能力を育むための
カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究

カリキュラム・マネジメントの 手引き

資質・能力を育む教育課程とは、従来の内容ベースの教育課程のよさを生かしながら、育てるべき資質・能力を子どもたちの実態等を踏まえ教師が設定し、子どもに意識させ、教科等横断的に指導し、資質・能力の評価サイクルをもとに子どもの姿で成果を共有することができる計画と指導体制です。

マネジメントの手法は8つにまとめられます。

1 育てたい資質・能力は、校種をつなぐという観点から実態をもとに教師が設定して子どもに意識させます。

意識化

2 育てたい資質・能力は、「ほめポイント」の形で具体化・重点化して、教科等横断的に指導します。

具体化

3 「ほめポイント」をもとに、教師は対話的・肯定的に関わり、肯定感や有用感を高めていきます。

対話で育む

4 授業のめあてから志まで、「振り返り」「見通し」を大切に、「自己マネジメント力」を育成します。

自分で決める

5 資質・能力の評価サイクルは柔軟に設定し、「子どもの学びの姿」で指導に生かします。

評価サイクル

6 「子どもの学びの姿」を子ども、教師、保護者、地域と共有するよう発信していきます。

レバレッジポイント

7 意識調査や学力調査等の結果をつながりの中で活用し、個に応じた指導で学力向上を目指します。

個人シート

8 「子どもの学びの姿」をあらゆる機会（面談、通知表、要録等）に活用し共有化して、教育目標の達成を目指します。

共有化



**8つの手法を用いて、3つの側面から
アプローチしていきます**

棚倉町教育委員会

1 意識化

○ 育てたい資質・能力は、社会的・職業的自立に必要な「基礎的・汎用的能力」です。本町では、保育園から、幼稚園、小学校、中学校、高等学校まで一貫して育成します。

基礎的・汎用的能力

仕事に就くことに焦点を当て、実際の行動に現れる観点から4つの能力に整理した。

「人間関係形成・社会形成能力」
多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができること、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。

「自己理解・自己管理能力」
自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

「課題対応能力」
仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。

「キャリアアプランニング能力」
「働くこと」の意義を理解し、自らは果たすべき様々な立場や役割との関係を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」25～26頁
平成23年1月31日中央教育審議会

○ 「生きる力」＝「資質・能力の三つの柱」＝「基礎的・汎用的能力」であり、学習指導要領に基づいて、児童生徒、地域の実態などをもとにして、学校が設定してよい資質・能力です。

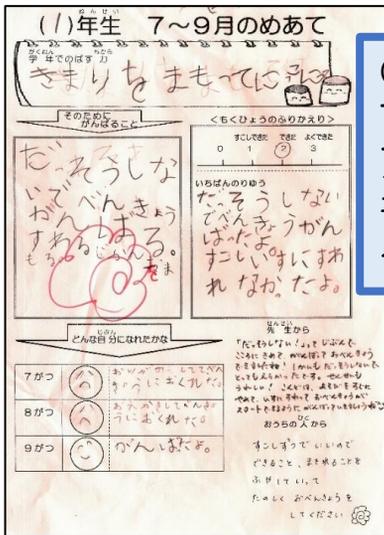
重点化した資質・能力は、教師が実態をもとに話し合って決定

学年テーマは、重点化した資質・能力を子どもたちに分かりやすく表現したもの

		令和4年度 第2四半期（7月～9月） 学年で育てたい資質・能力の一覧表					
学年	つくり・つばさ	1年	2年	3年	4年	5年	6年
育てたい資質・能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	自己理解・自己管理能力	自己理解・自己管理能力	自己理解・自己管理能力
目指す姿	自分よさや友だちのよさを進んで見つけることができる	規則正しい生活習慣を身に付けることができる	自分の言葉で考えや気持ちを伝えることができる	自分のよさに気づくことができる	自分で考えて、選んだり決めたりして行動することができる	友だちのよいところを見つけたり、自分を見つめ直したりして、自分にはよいところがあると思うことができる	これまでの様々な経験を生かし、困難な課題に対しても計画を立てて自己管理することができる
学年テーマ	よいところに目を向けて自分もみんなもレベルアップ	「みる」ことに全集中！そこに気づきがある！！	伝えよう！自分の思いを！	見つけよう！自分のよさを育てよう！みんなのよさを	やる気をプラス！自分で考えて取り組もう	大発明！大発見！自分のいいところ！	発揮しよう！自分の力！

○ 資質・能力は、「生きて働き、未知の状況に対応でき、学びを人生や社会に生かすことのできる」力です。関連性・発展性・汎用性を有する力です。ゆえに、子どもに意識させることが必要です。

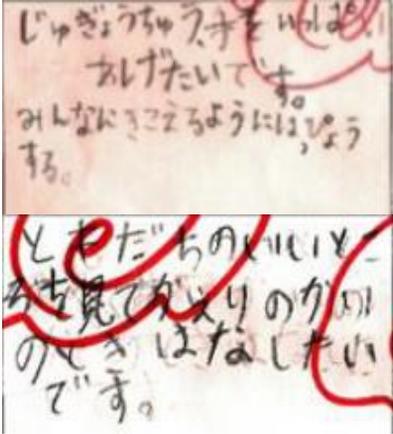
○ 意識させるためには掲示して「見える化」したり、キャリア・パスポートからその子のキャリア（軌）を確認したりする必要があります。



◎ 学校教育のつながりの中で、教師が子どもの過去も大切にして、今の学びを将来につなぐよう、個のよさのコアな部分を伸ばしていきます。

2 具体化

○ 資質・能力を重点化、具体化することで、子どもに意識させやすくなり、教科等横断的に指導しやすくなります。



○ 資質・能力を子どものレベルで具体化したものが「ほめポイント」で、学校・学年が共通理解し、認め、ほめ、育成すべき児童の姿である。学年で設定した資質・能力に基づく個のよさ、個人が伸ばしたい力「なりたい自分」がそれに当たります。

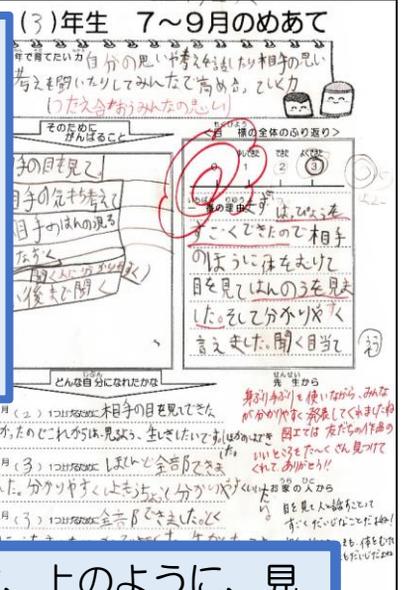
○ 例えば、Aさんの「ほめポイント」が「話を聞く」であるとすれば、国語科や算数科の授業でも「こちらを見て話を聞いていてすてき」「うなずきながら聞いてくれてありがとう」など、日常的にほめることができます。つまり、ほめポイントによって、資質・能力の指導が、日常的になり教科等横断的になるのです。

○ 日常的・教科等横断的に指導するためには、左のように四半期（3ヶ月）ごとに、振り返って見直しをもつようにしていくことが効果があることが分かってきました。

○ 個のレベルでは、上のように、見直しと振り返りを大切にして記録し、キャリア・パスポートとして活用していきます。

第3学年 第1 四半期キャリア教育関連シート

育てたい資質・能力	人間関係形成・社会形成能力		
目指す姿	相手のよさに気づくことができる		
学年テーマ	広めよう！ みんなで見つけないところ		
月	4	5	6
教科	国語科 「よく聞いて、じこしようかい」	国語科 「ちょっと知りたい友だちのこと」	
特別活動	学校活動 題材名「はじめてのあいさつ」	学校活動 題材名「話し合い活動」	
生活科・総合	「かまゆせ」 みんなの力を合わせて作業しよう	大豆を育てよう （わたしたちの身近なSDGs）	
道徳科	道徳 題材名「友誼屋（友情・信頼）」	道徳 題材名「迎いたあかおに（友情・信頼）」	



◎ 具体化・重点化した「ほめポイント」は、教科等横断的に認められることで、個人内や集団内につながっていき、関連性・発展性・汎用性を持った「資質・能力」として認識されるのです。

3 対話で育む

○ 自分にはよいところがあるのか、人の役に立っているのか、それらは対話を通して認識されます。つまり、資質・能力は、教師や友だち、家族や地域の方々との対話を通して育まれるのです。

T: オーデションがありました。中には、合格しなかった人もいましたが、でも、オーデションに向けてがんばった気持ちは、一緒だったんじゃないかな。

C: やって損はなかった。

T: オーデション、合格、不合格に関係なく、受けてよかったと思う人？

C: はい (多数)

T: C8さん、どうして？

C8: いい経験になったから。

T: いい経験になった。C18さんなんかはどう？

C18: 1次は落ちたけど、2次オーデションで受かったから。

T: 実はね、1回落ちた人、2回落ちた人って、結構いましたよね。みんながみんな、成功したわけではなかったんだけど。

(板書)「よい経験になった」

○ 5年学級活動「第3四半期の振り返りと第4四半期の目標」の授業の一コマです。例年、鼓笛隊のオーディションを巡っては、子ども同士、教師と保護者とのトラブルが生じやすくなります。授業者は、対話を通して、失敗を恐れず挑戦することが自分にとってよい経験になることを確認しています。

○ 自己の言動が否定される環境の中では、肯定感や有用感は醸成されません。大切なことは、自分を表現したときに否定されない「**心理的安全性**」が保証されていることが必要です。そのためには、肯定的に関わる必要があります。

○ 肯定的な関わり方としては、実践を通して、右の6事項と下のような16の技法が確認されています。

- 子どもの話をよく聴く。
- 子どもの言葉を大切にす。(復唱など)
- 肯定的な対応を基本とする。
- 子どもと日常的に対話するツールを持つ。
- 些細な変化を見逃さない。
- 多様なほめ方(肯定の仕方)を工夫する。

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| ① 基本的に否定をしない。 | ② 部分的に肯定する。 |
| ③ 人格と言動を分けて肯定する。 | ④ 他に同意を求め肯定する。 |
| ⑤ 語調に気を付けて肯定する。 | ⑥ 繰り返し継続して肯定する。 |
| ⑦ 見方を変えて肯定する。 | ⑧ 個人内で比較して肯定する。 |
| ⑨ 組織的に肯定する(ほめる)。 | ⑩ 計画的に肯定する(ほめる)。 |
| ⑪ 些細なことでも肯定する(ほめる)。 | ⑫ 子どもの言葉を肯定し、活用する。 |
| ⑬ 因果関係に着目して肯定する。 | ⑭ ストーリー化して、つながりで捉えて肯定する。 |
| ⑮ 児童・生徒の体験を価値付けし肯定する。 | ⑯ その時の感情に焦点を当て肯定する。 |

さらに、右のように「**価値付け、つながり、語らせる**」という技法を定式化しています。

・T: 1年生のお手伝いした人ってどのぐらいいますか？
 ・C: みんなやっています。(口々に)
 ・T: 全員やってたよね。C18さんどうだった？あなたは、1年生のお手伝いを通して、自分の力が伸びたなあとか、高まったなあと思った経験あった？
 ・C18: コミュニケーションが取れない
 ・T: 分かる！低学年だけど、人とかかわるのに、緊張したり、勇気がいったりして気持ち分かるかな。
 ・C6: 小さい子は、もともと苦手だったから
 ・T: うちのクラスに、そういうこと言ってた子がいた。C19さん、あなた振り返りにどんなこと書いてたっけ？みんな聴いて。C19さんて、1年生とかかわるのって、はじめはどんな気持ちだったっけ？
 ・C19: 苦手だから、ちょっとヤダ。。

価値付ける

つながる

語らせる

・C: C19さんは、4年生の頃、ぜんぜん自分から話してくれなかった。
 ・C: 4年生の時、担任の先生に「C19さんと遊んであげて」って言われた。
 ・T: 今は、先生、そんなこと言ってないよね。
 ・C: 4年生の頃は、みんなから話しかけないと..
 ・C6: 今は、しゃべってくれる
 ・T: 今は、C19さん。
 ・自分から友だちと話したりしてますよね。
 ・(板書: 自分の自信になった)
 ・1年生と話すことが自分の自信になった。

価値付ける

つながる

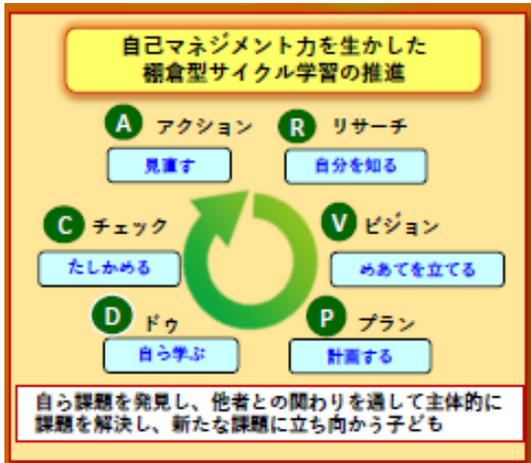
語らせる



◎ 対話を通して肯定感や有用感が高められ、資質・能力が育成されるのです。

4 自分で決める

○ 自分で決める。指示されて、大人の思うままに行動するのではなく、自分で決めて、自分のよさを発揮してほしいと思います。そのために、「自己マネジメント力」を育成します。



○ 自己マネジメント力（RVPDCA）は、左図のように、「R：自分を知る」「V：めあてを立てる」「P：計画する」「D：自ら学ぶ」「C：確かめる」「A：見直す」過程で構想され、課題を発見し、他者との関わりを通して、主体的に課題を解決していく学びのあり方です。

学び続けるためには、自己を知ること、目標を持つことが大切であり、個別最適な学びや協働的な学びで解決し、確かめることで振り返り、自己の成長を実感し新たな課題を持つことが必要です。特に、ビジョン（目的や目標）を持つこと、それを自分で決めることが将来に向けて学び続けるためには欠かせないのです。

○ 自己マネジメント力をつけるためには、学習計画表の作成が有効です。さらに、県教育委員会の「ふくしまの家庭学習スタンダード」も参照してください。

「自己マネジメント力」の向上
学習計画表の活用による自己マネジメント力の向上

第3四半期 とにかくトライ！一歩踏み出す勇氣！ つらい時こそもうひとがんばり

10月15日(日)	10月16日(月)	10月17日(火)	10月18日(水)	10月19日(木)	10月20日(金)	10月21日(土)	10月22日(日)	10月23日(月)	10月24日(火)	10月25日(水)	10月26日(木)	10月27日(金)	10月28日(土)	10月29日(日)	10月30日(月)	10月31日(火)
<p>外国語で、前は言えなかった道案内ができた！レベルアップ</p> <p>今日できなかった。明日の算数では間違えてもいいからとにかくトライ！</p>																

がはばった自分
ふり返り

さらに、自分で課題を立てる総合的な学習の時間を大切にしましょう。特に、チャレキッズや職場体験学習の前後には、事前・事後の学習を充実させ、課題解決型の体験学習となるようにお願いします。

毎日の授業でも自分で決める経験を大切にしてください。



◎ 発達段階や教科等のねらいに応じて自分で決める経験を積み重ねていきましょう。

5 評価サイクル

2 四半期制の導入

自分で立てた目標を四半期ごとに振り返る

○ 2学期制をさらに半分にしたり、きめの細かい評価を目指します。

第1四半期
4～6月
自己目標の設定
運動会⑤・夢作文⑥
学年のスタート
学級の一員としての自覚

第2四半期
7～9月
自己目標の振り返り
夏休みの⑧
計画の立案と遂行
自分のことは自分で

第3四半期
10～12月
自己目標の再設定
やまなしふれあい
フェスティバル⑩
上学年をお手本に
自らの役割を果たす

第4四半期
1～3月
次の学年・学校への備え
新年の目標
自己目標と進級・進学
の要件
必要なことを身に付けたか

○ 四半期制の本質は、学期にかかわらず、資質・能力の評価を柔軟に設定することです。さらに、教科等の評価サイクルと別に設定することで、「振り返り」と「見通し」によって教科等横断的に学ぶ意欲を育成することです。

○ サイクルを3か月とすることで、各教科等とのつながりが見通すことができ、教科等横断的な指導がしやすくなります。子どもたちが目標を意識して取り組む期間としてももちろんよいことが、実践を通して明らかになりました。

○ 棚倉小学校からは、「児童がなりたい自分のPDCAサイクルを回しやすい」「育てたい基礎的・汎用的能力を1つずつ焦点化できる」という成果が報告されています。

各学年の第1四半期に
育てたい資質・能力一覧

- ・目指す子どもの姿を4段階で表した規準表
- ・各種調査結果
- ・教師の見取りや願い

学年	つくし・つばさ	1年	2年	3年	4年	5年	6年
育てたい資質・能力	自己理解・自己管理能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	人間関係形成・社会形成能力	人間関係形成・社会形成能力	人間関係形成・社会形成能力	キャリアプランニング能力
目指す姿	自分の想いによらず あいさつができる 時間を守ることができる	最後まで話を聞くことができる	いつでもどこでも あいさつができる 時間を守ることができる	相手のよさに気づくことができる	自分の考えや気持ちが 伝わるように 理由をつけて 話すことができる	友だちと折り合いを つけながら 協力・協働することが できる	6年生としての 役割を理解して 意欲的に取り組む ことができる
学年テーマ	何てだって 新学期 自分もみんなも 笑顔のスタート	「きく」に 全集中! ゴールまで	1年生の お手本に なろう	相手の いいところを 発見しよう	ひとことプラス 理由をつけて 話そう	みんなで動こう One Team 5年	ゴールを イメージし 動こう

育てたい資質・能力は、右図のように設定します。学期の評価サイクルを別に設定することで、長期休業による仕切り直しを抑えることができ、評価を指導に生かすことができますようになります。

子どもたちとの
話し合いから

「ほめポイント」

みんなで 見取る 認める ほめる

棚倉小学校のキャリア教育の取組で、私が最も評価したいのは、“四半期制”で見直される資質・能力の設定です。児童が目標に切迫感を持ち、確かな自己評価に導く見事な工夫だと思われま。

※ 長田徹監修 棚倉町教育委員会 棚倉小学校編著『資質・能力を追うキャリア教育 キャリア教育の町“棚倉”の挑戦』長田徹氏の第3章解説より

◎ 資質・能力の評価サイクルを柔軟に設定するという本質をもとにして、子どもの学びの姿を指導に生かしていきます。

6 レバレッジポイント

○ ある要素に手を加えたら、他の要素にまで望ましい効果が表れる「レバレッジポイント」。



○ 本町におけるキャリア教育のレバレッジポイントは、「実践の成果を資質・能力が身に付いた子どもの学びの姿で、共有し発信すること」です。

○ 資質・能力が身に付いた子どもの姿で成果を共有、発信するようになれば、少ない労力で教育課程の編成、実施、評価、改善のすべてにより影響を及ぼし、教育活動の質を向上させることができます。

控え目で自信がもてなかった5年児童

目標
学年：とにかくトライ！
一歩ふみ出す勇氣！！

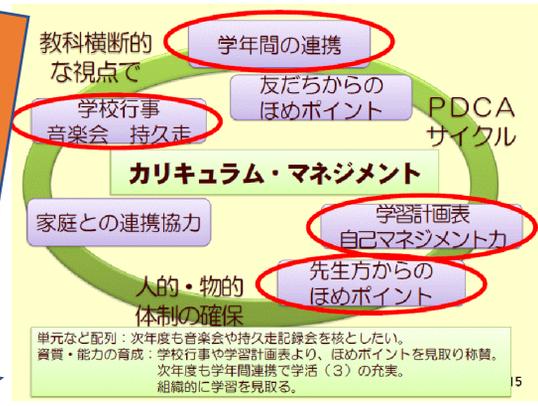
本見
めあてにあるように、授業で毎日1回は発表する。
発表ができてうれしかった。
自分から発表したいと思うようになった。
発表が楽しくなってきた。
発表ができてうれしかった。
発表ができてうれしかった。

振り返り
5-④-3-2-1
「発表で発表（発表）できなかった。だから、あしたの発表で頑張ろう」と思っていた。発表ができてうれしかった。発表ができてうれしかった。発表ができてうれしかった。

ほめポイント
担任外・友だち 担任
発表ができてうれしかった。発表ができてうれしかった。発表ができてうれしかった。

実践
意欲的に発表
自学のノートを友だちと振り返る
音楽会のオーディション挑戦

自信をつけ 何事にも前向きに取り組む姿



○ 上の事例は、学年目標をもとに、「授業で毎日1回は発表する」という目標を設定した子が、発表にトライする姿を「ほめポイント」として、各教科の授業などで励まし称賛するように関わることで、自信を持ち、自主学習や鼓笛隊の楽器オーディションなどにも前向きに取り組むようになった姿です。

○ これらの成果を受けて、次年度も第3四半期は「音楽会」や「持久走記録会」などの行事を中核として展開すること、学年の教師間で「ほめポイント」を共有して、資質・能力を育成すること、「要」としての学級活動（3）の指導を充実させることなどを確認できたのです。

○ カリキュラム・マネジメントに子どもが参画する可能性が見えてきたことです。子どもの姿で成果を検討することで、子どもたちの思いや願いが教育課程の編成に生かされるようになってきているのです。

◎ 「子どもの学びの姿」を子ども、教師、保護者、地域と共有するよう発信していくことで、教育活動の質の向上を図ることができます。

7 諸調査結果個人シートの作成と活用

○ 町では、キャリア教育意識調査、QUテスト、CRT、全国学力・学習状況調査、ふくしま学力調査等多くの調査を実施しています。

○ これらの調査結果は、別々に存在しており、関連させて考察するのが難しい状況です。そこで、調査結果を1枚のシートにまとめ、多様な調査結果や評価活動を関連させて、個の状況を考察できるようにしました。

キャリア教育意識調査結果				諸調査結果個別シート		CRT											
6月(12月)6月(12月)6月(12月)				令和3年度 社川小学校 漆草 武雄		令和3年度											
6年1組3番				6年1組3番		前期						後期					
1	人の役に立つ人間になりたい	0	83%	20%	21%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2	地域や社会をよくするために考える	0	92%	11%	96%	41	42	43	44	45	46	51	52	53	54	55	56
3	働いている人を助ける	0	80%	12%	89%	61	62	63	64	65	66	71	72	73	74	75	76
4	新しい得意先を開拓する	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
5	場所がなほ、場所が伸びず	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
6	自分で決めたことばかりやる	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
7	7のことはなんでもやらない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
8	自分にはおもしろさがある	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
9	知りたいうちは調べたりする	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
10	失敗を恐れず挑戦する	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
11	勉強は自分や先生に任せよう	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
12	自分で考え自分から取り組む	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
13	将来の夢や目標を持っていく	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
14	夢や目標を達成するまで諦めない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
15	国語の学習は将来役に立つ	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
16	算数の学習は将来役に立つ	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
17	平日の家庭学習時間	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
18	週末の家庭学習時間	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
19	学習意欲が伸びている	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
20	学習意欲が落ちている	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
21	学習意欲が安定している	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
22	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
23	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
24	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
25	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
26	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
27	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
28	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
29	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
30	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
31	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
32	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
33	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
34	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
35	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
36	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
37	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
38	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
39	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
40	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
41	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
42	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
43	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
44	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
45	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
46	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
47	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
48	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
49	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
50	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
51	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
52	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
53	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
54	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
55	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
56	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
57	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
58	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
59	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
60	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
61	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
62	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
63	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
64	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
65	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
66	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
67	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
68	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
69	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
70	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
71	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
72	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
73	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
74	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
75	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
76	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
77	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
78	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
79	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
80	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
81	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
82	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
83	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
84	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
85	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
86	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
87	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
88	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
89	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
90	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
91	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
92	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
93	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
94	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
95	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
96	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
97	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
98	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
99	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					
100	学習意欲がわからない	0	80%	12%	89%	平均正答率(前)						平均正答率(後)					

○ 上段は、キャリア教育意識調査、QUテスト、CRTの結果が確認できます。

○ 下段は、全国学力・学習状況調査、ふくしま学力調査、単元テストの結果を記載するようにしました。さらに、資質・能力の評価や通知表の所見、指導要録の所見等も記載できるように構成しています。

○ このように、様々な調査結果や評価結果を1枚のシートにまとめることで、より個に応じた働きかけができるようになります。学力が向上しない要因や向上した要因を多面的に把握することが可能になります。よって、資質・能力の伸長と学力向上が結びつかないという事態も起こりにくくなると考えます。

○ ただし、このシートは、調査結果のデータがエクセルのデータであることを前提で作成されています。校務処理にエクセルを最大限に活用するという前提です。

○ エクセルで作られていないデータは、エクセルのデータに変換する必要があり、場合によっては入力の手直しが必要となります。

○ このシートにすべてを記入しようとする必要はありません。シートの完成が目的ではなく、あくまでも諸調査の結果を関連させて、個に応じて指導するためのツールであることを踏まえ、負担にならないように活用することが必要です。

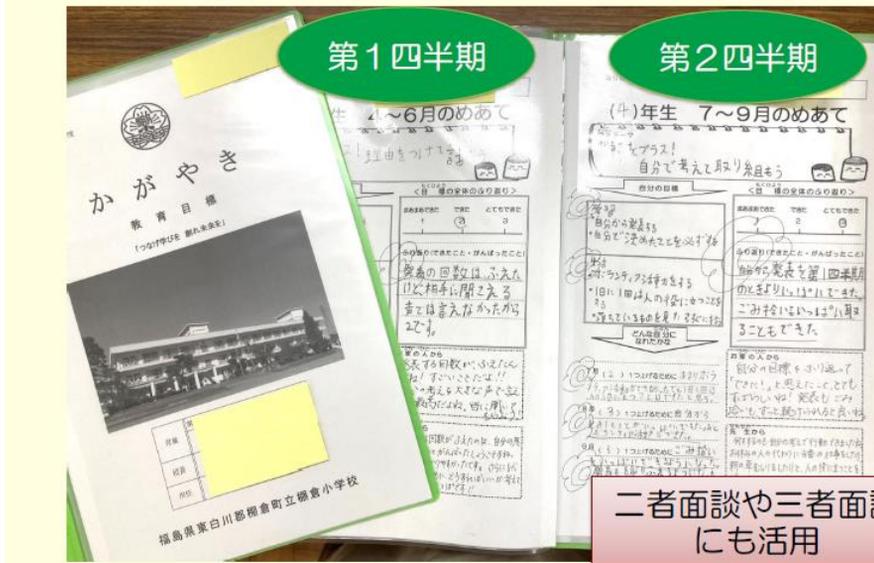
◎ 意識調査や学力調査等の結果をつながりの中で活用し、多面的に個をとらえ、個に応じて学力向上、資質・能力向上を目指します、

8 子どもの姿の共有化と教育目標の達成

○ 子どもの学びの姿は、キャリア・パスポートとして記録され、保管され、活用されます。キャリア・パスポートが共有のためのツールとなります。

例えば三者面談での活用です。キャリア・パスポートを活用することで、「いつもほめられていることと同じだ」「うれしいね」「みんなで同じ方向を向いてがんばろう」などが話題となります。学校と家庭が手を取り合って子どもを応援していくことを確かめ合う場を実現することができるのです。

通知表にもキャリア・パスポート活用

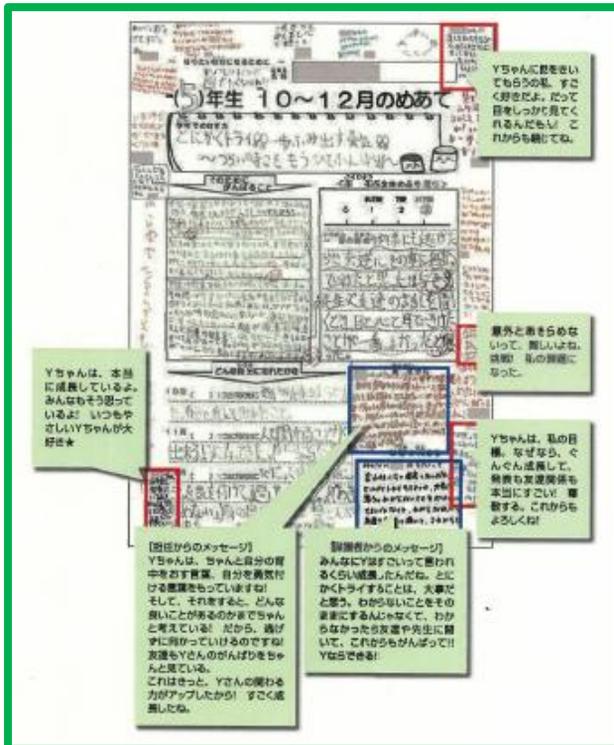


○ 通知表の所見の代わりにキャリア・パスポートを添付したり、所見の記入にキャリア・パスポートのコメントを活用したりする取組も見られます。

○ 指導要録の所見にもキャリア・パスポートの内容を活用することができます。

○ 目標と振り返りのシートには、左のように、担任や保護者の他に、友だちからのメッセージも記入されています。
○ 多くの他者から認められることで、資質・能力が身に付いている実感を得ることができます。
○ さらに、互いのよさを確認することにもつながり、「心理的安全性」のある学級づくりにも役立ちます。

◎ **キャリア・パスポートを媒介として、資質・能力が身に付いた子どもの姿を共有し、教育目標の達成を目指すことができるのです。**



学校目標の設定及び実現に向けた研究 社川小学校

キャリア教育の視点から設定した教育目標「自立の気風（自ら学ぶ・共に学ぶ・真似て学ぶ）」をもとに、評価（各種調査結果）を活用してPDCAサイクルを回すシステム（評価から回すPDCAサイクル）を構築した。さらに、評価サイクルと学校運営協議会を連動させ、教育活動の実施に必要な人的・物的資源を効果的に組み合わせながら活用するカリキュラム・マネジメントに取り組み、児童の「きく力（聞く・聴く・訊く）」を高めた。

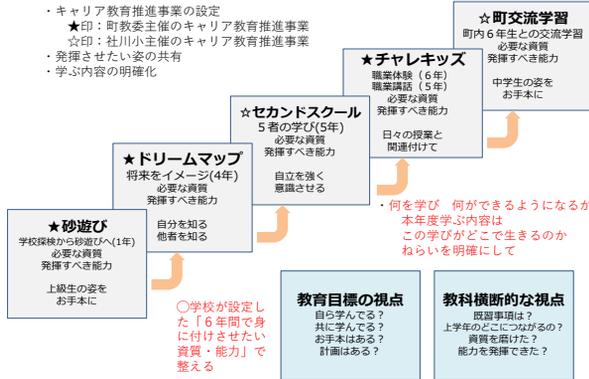
子どもの学びの姿で設定した教育目標「自立の気風（自ら学ぶ・共に学ぶ・真似て学ぶ）」は、児童が自らの学びを振り返ることができる。

【図Ⅲ-1-①】新教育目標の設定



何を学ぶかを精選

6年間を見通して（一部を抜粋して表示）



○ 6年間を通して育てる資質・能力、次の担任に引き継ぐ内容を明らかにした。さらに、それらをもとに、何を学ぶかを精選し、系統的な体験活動を設定し、教育課程に位置付けた。

○ 新運動着デザイン決定プロジェクト

< 児童の姿容 >

～柱となる行事「やまなしふれあいフェスティバル」を通して～

1年生

一緒につくり上げていく経験から
児童から「練習したほうがいい!」の言葉。できないことにも粘り強く取り組んだ。引っ込み思案な児童も、少しずつ前に出られるようになった。大きな声が出るようになった。

自ら学ぶ児童

2年生

身に付けた資質能力を授業で発揮
自線や顔の向きを意識させるなど、相手意識を持たせた具体的な指導を行った。このことにより、授業中の発表が上手になった。チームで自発的に練習したりめあてを決めたりする姿が見られた。

共に学ぶ児童

3年生

認め合える仲間
やまフェスに向けての練習を通して、互いに認め合い、協力できる関係づくりができた。けんかをするのが少なくなった。

真似て学ぶ児童

4年生

相手意識を持って
担任の以外の先生の言葉がきっかけになり、客観的に自分たちの発表を振り返ることができるようになった。発表を聞いて見てくれる相手がいることを意識できた。

自ら学ぶ児童

5年生

学んだことを発揮した「やまフェス」
やまフェスは、セカンドスクールで培った力を生かす場、発揮する場となった。「相互扶助」をテーマに、短い時間で仲間とともに自分たちの力で自分たちだけの発表をつくり上げた。

共に学ぶ児童

6年生

6年間の総まとめ「自立」へ
「伝える」力、相手意識を持つこと、アドリブ力、修正力、ICT活用など、6年間で身に付けた力を十分に発揮した。最高学年としてこれまで「かかわる力」を大切にして学んできたというメッセージを発信した。

自ら学ぶ児童

1 新運動着デザインの決定

令和5年度より新半袖運動着導入

保護者の声「汚れが目立ちにくく、乾きやすいものに替えてほしい」

職員会議で共有

PTA本部役員会・学校運営協議会で話題提起

子どもたちの声を反映した方が良いのでは
子ども主体に進めた方が良いのでは

実行委員会の話し合い

代表委員会・集会委員会（3～6年生）の参画

プリントは前?後? それぞれのデザインの良さは?
ロゴのデザインは? どうやって決める?

新運動着デザイン発表

全校集会でサプライズ

子どもたちの言葉で伝える新デザインへの親近感

効果音を付けてサプライズ感を演出

このデザインに決定!

学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究

高野小学校

少子化による課題を克服するためにICTを最大限に利用し、育てたい資質・能力と「情報活用能力」とを関連付け育成し、ICTや地域の人的、物的資源の活用による「個別最適化」と「協働的な学び」の両立などを目指すカリキュラム・マネジメントの在り方を明らかにした。

6年 「知ろう！感じよう！創り出そう！未来の福島を考えるプロジェクト」

5年生の時にセカンドスクールで震災学習を行い、富岡町3・11を語る会の語り人から東日本大震災について学ぶ。その中、富岡町立小学校の三春校が令和4年3月に閉所することを知り、映像発表会参加やオンライン交流を行う。その学びの中で、児童は「彼女たちのふるさとに行ってみよう」という思いをもち、その思いを修学旅行の企画立案に生かしたり、6年次の総合的な学習の時間のカリキュラムを考えたりした。

児童の思いをくみ取って、担任がSDG sを軸にした6年総合を立案。福島県教育庁社会教育課の事業に応募し、補助を受ける。SDG sの全般を学ぶために、福島市NPO法人「ビーンズふくしま」江藤大裕氏に講演を依頼。(株)ユニクロと「届けよう、服のチカラプロジェクト」を展開、保護者・他学年・教職員・地域・企業を巻き込んで活動。

5年生から続けてきた震災学習を修学旅行で終結させ、福島大学客員教授 天野和彦氏に学びをコーディネートしていただき、震災学習を持続可能な高野地区の未来へと学びをつなげ、学習発表会での発表(自分たちで発表内容を考え形にする)した。バイフォワードカフェを開催する。

最後は、「人」に焦点を当てた「今の高野を残したい」という思いから動画を作成し、卒業前の上映会に向けて、活動を継続している。



○今のわたしについて書いてみましょう。 R リサーチ 自分を知る

児童のコメント

にが手なことも、自分でやりつけてあきらめない自分になりたい。

自分のよいところをいえること。自分のかたがたをわかって、おきかえたい。

自分のよいところをいえること。自分のかたがたをわかって、おきかえたい。

自分のよいところをいえること。自分のかたがたをわかって、おきかえたい。

ICTや地域の人的・物的資源を活用し、自己を見つめる児童

A児は、算数には苦手意識があり、ケアレスミスも多い。迷いや不安の感情から、何にも手を付けずに時間ばかりが経ってしまう様子も見られた。

①他校とのオンライン学習(生活科の時間)

他校の1, 2年生にオンラインで高野小学校や高野地区を紹介した。本校児童は自分の発表方法を選び、3つの班に分かれて高野地区についてまとめた。

担任のコメント 進んで原稿作りをして素晴らしいね。練習をたくさんして自信が持てましたね。

②夏休みの学習・自己マネジメント



夏休みのしゅくだいを、一気にぜんぶおわらせないで、少しずつやる。後半にしゅくだいをおわらせられた。(夏休みの計画表 めあてとふりかえり)

担任によるコメント

AIDリルにも進んで取り組み、確実に「クリア数」を伸ばしましたね。

ICTや地域の人的物的活用をとおして新しい課題に突き当たってもまずはチャレンジしてみようとする姿に変わった。成功体験の積み重ねが本児の自信につながった。

できる自分への意識をもち継続しようとする姿

